

コラム編

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-12-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 五百崎, 慶太, 奥村, 佳奈, 長原, みずほ, 名倉, 香織, 袴田, 恵美, 渡邊, 尚貴, 奥澤, 淳, 織田, 悠, 斎藤, 愛, 鶴田, 駿介, 秋山, 絵美里, 深澤, 佑輔, 古田, 直人, 川口, 枝里子, 鈴木, 久仁子, 鈴木, 誉子, Inken, Trebbi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/6331

コラム編



撮影：小松かおり 先生

井川を歩こう

初日	5キロ	井川大仏へ
2日目	8キロ	やまびこまで+宿周辺
3日目	8キロ	井川駅+閑蔵
4日目	12キロ	井川少年自然の家
5日目	11キロ	田代まで
6日目	13キロ	田代まで+宿周辺
7日目	0キロ	発表会

合計 57キロ(だいたい静岡→御前崎くらい)

歩くのが好きです。遠くに行くのが好きです。フィールドワーク実習中はひたすら歩いていました。「乗ってくかい？」と声をかけてくださる方に甘え、車に乗せてもらうこともありました。井川は自然豊かで車通りが少なく、とても快適に歩くことができました。…ただ、夜はすっごく暗かったです。もみじマラソン出場したいなあ。

本当の「豊かさ」は何か考えさせられました。

井川に滞在した一週間、振り返ってみると、都会とは違う価値観の中で生活していたのだな、と思いました。都会での「良いもの」が、井川において必ずしも「そう」ではないということです。

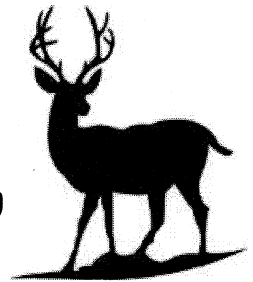
村を歩いて、実際に村の方々からお話を聞く機会はいくつもありましたが、やはり皆さん、井川の静かでゆったりとした時間の流れる環境を好んでいる様子。忙しく時間の過ぎていく都会、何もしない時間は落ち着かないという現代人も多くなか、井川はそういった空間と全く別の時間枠で動いていたかのように思われました。

そのような気持ちを、歌った和歌があります。私は百人一首が好きなので、ちょっとうんちく込みで紹介させていただこうと思います。

<百人一首 第8番 作者・喜撰法師>

わが庵は 都のたつみ しかぞ住む

世をうち山と ひとはいふなり



訳・私は、静かなこの環境を気に入り好んでここに住んでいるのに、
憂き世が嫌でそこに住んでいるのだという、いい加減な噂もあるようで。

作者である喜撰法師は、平安の世でその才をもてはやされた6人の歌人、「六歌仙」のひとりなのですが、確実に彼の歌だと分かっているのはこの一首のみです。喜撰法師については経歴不詳な部分がかかなり多く、この歌から宇治山の僧であったことが分かる程度という謎多き人物です。

実習を終え、再びこの歌を見たとき、以前は特に何も浮かんでいなかった情景に、井川と井川の人々の姿が思い浮かびました。「ああ、喜撰法師が宇治山の奥地で暮らすことを選んで気持ち、今なら前よりはわかるなあ」と、井川の人々の笑顔を思いながら考えました。

「便利」だけが直結して「豊かさ」を生むわけではないな、という考えを与えてくれたことが、もしかしたらこの実習で私が得た一番の実りだったのかもしれない。

どうぞ井川の皆さん、これからも「うち山」を愛す元気な皆さんでいてください。

井川にいた 1 週間、昼間に散歩をする日が多かった。細い道がたくさんあって道を覚えられなかったので、常に新鮮な気持ちで散歩できた。

また、歩いている途中に出会った人と話をするのも楽しかった。

あるお店の中では作業をしているところが見えたので、中に入れてもらって見学をしていた日もあった。すると、そこのおばさんの親戚で、今は井川に住んでいないお姉さんが遊びにきたところに遭遇した。偶然のことだったのでとてもびっくりしたが、こんなこともあるのが散歩の醍醐味だ。

普段行かない道を歩いてみよう！という気持ちになった日があって、その日はダム沿いをずっと歩いてみた。途中林で道がふさがれて困った時、庭で作業をしていたおじさんに道を聞いたが、なぜか獣道を通って人の畑に入って行ってしまったので、これは違うと思ひ引き返すことにした。

すると子犬がいた。小さくてかわいい犬で、首輪はついているけどひもがついていない。さすが田舎と思いながら子犬と遊んでいた。ちょっと嘔んできたが、人なつこくて癒された。

そろそろ帰ろうかなとその場を離れようとしたが、犬がついてくる。逆方向に行ったり、走ったりしてみたけどずっとついてくる。困ったなーと思ったけど悪い気はしない。それからしばらく犬と追いかけて楽しむ。本当に帰らないといけないという時間になったので、本格的に犬をついてこなくさせる方法を考えた。最終的には家にいらしゃった飼い主の方に言って犬と別れることができた。少しさみしかった。犬を飼いたいと思った。

それからというもの、私は将来犬を飼うことばかりを考えるようになった。飼うなら小型犬にしよう、マルチーズが理想である。しかし大型犬も捨てがたい。小型犬には飛び込んでくるかわいさがあるが、大型犬は安らぎを与えてくれる。そんなことを考えていると実家の犬のことを思い出す。実家の犬もかわいい。

こんな感じで将来の夢まで考えさせてくれる井川での 1 週間だった。たまには散歩するのも気分転換に良いと思う。気が減った時には家の近くを歩いてみようかなと考えた。

私たち文化人類学コースには、絵がやたらうまい子が多い。高校時代は美術科 N 原、チャリ部 OK 村、キュートな変 t…森ガール S 藤、そして私 NA 倉は、皆「なんか絵が好き」で、普段から「なんか面白いことやりたい」と漠然としたクリエイター魂を持っている。そんな4人が集まるという奇跡が、井川五郎を産んだ。

ほろ酔いの H 先生の「井川のイメージキャラクターとか作っちゃいな」という何気ない一言が、私たちのクリエイター魂に火をつけてしまったのだ。

ぶっちゃけノリである。むしろノリでしか作れません。

もともとは誰にも見せるつもりなんてなかった。井川五郎は、自己満足の賜物。

【① S 藤案】



S 藤案は、

「さ、さすが S 藤…(汗)」と思わず引いてしまうほどのかなり斬新なデザイン。他の3人に言われるがまま、次々と井川のイメージを書き加えていった彼女の素直さは才能である。

ダムをイメージした四角い顔と、トウモロコシの胴体、口から溢れでる豊かな水、

PR キャラといえば、ちでじか

そしてなぜかちでじかを狩ろうとしている私 NA 倉。

(恐らく、この時私が、凍った鹿の燻製をひたすらにナイフで削って食べていたからだと思われる。)

【② OK 村案】



2 番手 OK 村案は、

最初からちでじかを意識している。

井川の大自然の中、alcohol で羞恥心から解放された彼女は、のびのびとした表現で描くことができたようだ。右手につかんだトウモロコシの絶妙な位置で、彼女の鋭い感性が分かるだろう。

そして右下でシカの脚を攻撃している私。

広がる血だまりはシュールリアリズム。

不敵な笑みで若年層の心をはっきりつかみそうなキャラクターである。

【③NA 倉案】



3番手 NA 倉案は、この時シカ肉の燻製をナイフで削る作業に没頭していた。シカ肉は前日にも刺身で食べたが、もちもちしていてとてもおいしかった。私たちにとって、井川＝シカ肉。

また OK 村案のシカを見て、「私、もっとうまくシカかけるよ！」と張り合いで生まれたともいえる。

実は、キュートな瞳を最初に書いた。隣にあったオレンジジュース：なっちゃんをのみながら。

右手のお茶の葉と、左手のトウモロコシはもちろん井川産である。そして、なぜか彼はメンパから飛び出ている。(サザエさん形式)

いずれも井川の名産品である。

「いいじゃん！これ普通にいいじゃん！」

誰かが言った。最終的にこれが井川五郎の原型となった。

色塗りには、S 藤の提供したペイントツール Sai を使用。

井川五郎で私たちのディスカッションが最も白熱したのは、意外にも、色塗りであった。

恐ろしいほど全員の、感性が合わない・・・。

しかも、わたしたちは次の日には、発表会が控えていた。

それなのに、私たちはこうでもない、ああでもないで五郎の色を塗りかえあっていた。

N 原「もっとイメキャラらしく POP な色にしようやー」OK 村「オレンジとかがいくね？」

結果できたのが、あのび●ちゅ一色の五郎。

いまだ釈然としない私。

とにかく井川五郎には、

皆の井川への愛と 1 週間の思い出が詰まっていることは間違いない。

【謝辞】

報告書を制作するにあたり、井川で沢山の人にお世話になりました。

まずお話を聞かせてくださった方々、

資料を提供してくださった方々、

飲み会に招いてくださった望月さんをはじめとする井川森林組合の方々、

どくだみ茶をくださった

お茶摘みをさせてくださった長島一裕さん、

特に厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

私はFW実習の1週間のうち4日間を栗紀商店さんにお世話になったわけですが、いやまあ様々な経験をさせていただきました。あれだけ多くのお弁当作り、私某大手弁当屋でバイトしていましたがもっぱら土日の夕方からだったんでついぞしたことがありませんよ。作業そのものは実に懐かしいものを感じましたがね。数多いとなんか辛い。思い返して見れば「このバイトで弁当スキル磨いてもなんの役にも立たないよなあ」と当時は思っていたけれど、ここにきて役に立つとか立たないとかは別にしても経験があるってのは心強かったです。いかん、脱線した。ここでバイトの思い出語ってどうする自分。

さて話を微妙に戻して私はお刺身のツマ、あれが大好きなんですがね、刺身1に対してツマ3で食べるくらい好きなんです。わさび醤油で食べるツマって本当においしいよねと刺身を食す度に思うのです。そのツマを作る機会をもらってしまったわけですよ。観水荘さんのご飯も担当なさっている栗紀商店さん。我々がお世話になってる観水荘さんの夕食用ということは私の作ったツマを皆さん召し上がるということでもなにそれ責任重大。栗紀商店さんのお魚は本当に美味なんでそれに負けないくらいのおツマを作ろうと思ったわけですねここで。うっかりデジカメでは撮り損ねたので画像は無いのですが、ツマ作る為の道具をお借りしてぐるぐる取っ手を回す。すりおろし器のツマ用…というんですかねえ、刃がとんでもなく切れ味よくってするする〜とツマになっていく1本の大根…大変感激いたしました。ところてんを思い出したよね。ところてん食べたこと無いけれど。

そうそう、経験とはちと違うかもしれませんが、配達に同行させてもらった際当然山道を車で通ったわけですよ。いや驚いた慣れてる人が運転すると全然酔わない、びっくり。車同士のすれ違いも互いに知っているなかだからか安心感がすごい。距離感がなんか、こう、ベスト。そして慣れていない人が山道を攻めるととんでもない結果になるというのが道で実証されていた。しょんもりした運転手が残念なことになっている車の隣で警察の人になにか質問されていた。ちょいちょいのぼってくる若人がいるらしい。先日免許証とって1周年の私だがとてもじゃないけどそんな挑戦しとうありませんわ。

あとは配達先で見た猟犬の迫力がすごかったとかキノコ食べたいとか山菜いいですね山菜とか…たくさんお世話になったなあ。ごちそうになったものはどれも大変おいしかったですありがとうございます。

そうそう、キュウリやナスや人参を袋詰めにする作業、それ赤いテープで口を閉めたんですが、あれ小さい頃実家にもあって使用してたけど危ないからって触らせてもらえないまま気が付いたら口の縁自体を縛る手法に切り替えられていた…。という消化不良な思い出があって、その思い出の赤テープ(仮名)使えたのもうれしゅうございました。

えーっと、そうだ、商売柄はかりって当然ありますよね、備え付けタイプの大きなはかりの印象が妙に強く残っていて、それで今年の私のインターンシップ先決まったような感じでした。これもありがとうございます。よし以上はボロ出しそうなので失礼しときます。

井川に行くのは大学に入って三度目ではあるものの、前の二回は井川湖の手前の青少年自然止まりであって本村へと行くのは今回が初めてでした。そのためか井川の外部との流通事情について想像していたことは、山道もなかなか険しくかったからわざわざ井川で作って外に持ち運びはあまりしていないんだろうな、あってもそれなりに運び出しが容易そうなお茶がほとんどないんだろうなといったことばかりでした。そのため当初から井川の農業について話を聞くとすれば、お茶づくりを中心に聞くことになるだろうなと曖昧に考えていた面がありました。

でも実際に本村を訪れてみると、確かにお茶畑は多いなーと感じはしたものの、お茶畑だけじゃなくて普通の畑や水田まであってなんか予想していたのとは違うなと感じたりしていました。そのためアポイントを取っていなかったのですが、観水荘のおかみさんに紹介していただいて（本当にありがとうございます。）急遽翌日に野菜作りをしている方に話を伺ってみたりしていました。でも逆に現地調査ではお茶より野菜についての話ばかりが新鮮だったせいか、そちらばかりに気を取られていたなど報告書を書いている中で感じる現状もあつたりします、こちら辺はかなり反省点です。卒論の際にはもっと計画や事前調査を大事にせねばと感じる次第だったりします。

また今回うちの班は別々に活動していたこともあって、本村から少し距離のある西山平に歩いていた時に、一人では怖いと感じたりもしていました。釣り人がどこかいつちゃったんだよという話を聞いていたこともあって、ふと大仏のほう



に行ってみようかと思いついたり、本村の上のほうの道を歩いていたらどこに行けるんだろうなと思ってみたりしても、臆病風に吹かれて行けなかったのが今思うと残念ですね。いずれまた訪れた際にはのんびりと歩きまわりたいものです。（もちろん道に迷わないよう地図を持ったり、怖くないように数人でという前提のもとで）あとこんな自分でも唯一歩



けた夢の吊り橋については、その吊り橋自体は二度目のトライで渡り切れたのですが、その先の道が一部と舗装されていないところがあってやはり怖さを感じてみたりしました。ほかにも雨が降っている中で歩いたりしたことがかなり印象に残っています。若干怖いけれども、なんとなくああいう道を歩いていると落ち着く面もありますね。いや自然って雄大なもんでした。いつの間にかと取りとめのない話になりましたがこんなところで筆をおきたいと思います、ではでは。

私が井川へ行くのは、小中学の時の行事を加えると、今回のフィールドワークで三回目のことだった。小学生の時は本村へも行ったので、覚えていた風景もあり、懐かしいなあなどと思っていた。

中でも思い出されるのが、「夢の吊り橋」だ。本村から西山平へ向かう途中にあり、小学生の時にその橋の上で記念写真を撮った。班の皆が収まるには私は前に座らなければならなかった。私は高所恐怖症ではなかったが、これがかかなり恐ろしいもので、小学生ながらに「ちょ、ふざけるなよ、マジ落ちる」と思いカメラマンを睨みつけたい衝動をこらえ、カメラに向かって笑った。

そんなちょっと苦い思い出のあるあの「夢の吊り橋」を今回の調査でも渡ることにした。ちょうど西山平に行こうとしていたので、そこへ寄ってリベンジしてやろうと思ったのだ。まあ、あのときはしゃがまされたし、何より今より幼かった。でも、今回は無理にしゃがむようなこともない、余裕で渡れるだろう。向かう途中、記憶の中の吊り橋で予行練習し、ワクワクしながら吊り橋へ足を運んでいた。

記憶が曖昧だったためか、意外に案内の看板から橋までが遠かったことに驚きながらもたどり着いた吊り橋は、昔より綺麗にそしてしっかりしたように見えた。行けるッ！私は



意気揚々と渡り始めた。が、中間より手前まで来て思う、あれ、ちょっと、怖くないか？ちょっと、高くないか？カメラを持っていた手に汗がにじむ。大丈夫大丈夫。心を落ち着かせながらも中間まで足を運び、この景色を写真に収めて、はい、ピース…できませんこ、怖い！！！！ちょっとあれなんでこんなに怖いのおかしいな私の予定では「うわあ！あの頃ビビってた私馬鹿みたい！うへへ余裕余裕！今なら走って渡れ

る！むしろ揺らしながら渡れる！ジャンプしながら渡れる！」となるはずだったのにいやああすみません怖いです。

結局、慎重にかつ素早く渡りおえ、私のリベンジは失敗に終わった。

後に撮った写真を見ると素敵な感じで橋が光に照らされており、渡った先が輝いているように見え、いかにも“夢”の吊り橋だが、私にはどうやら悪“夢”の吊り橋だったようだ。

次、また井川に行くときは三度目の正直として今度こそ余裕である吊り橋を渡れる…などとは“夢”にも思わない。

11月3日に追加調査で井川に行った時のことを書きたいと思います。

前回、フィールドワークで井川を訪れた時は、大学から井川本村までバスで移動しましたが、今回は大井川鉄道を利用しました。金谷駅から井川駅まで4時間半ほど、ローカル線の旅を楽しみました。

金谷から井川まで一本の電車で行くことはできません。途中千頭駅で井川行きのアプト式電車に乗り換えます。千頭駅で次の電車来るまで1時間ほど過ごしましたが、この駅でSLと対面しました。

SLは観光客の人气が高く、多くの人が乗車していました。近くで見るととても立派で迫力がありました。

千頭発井川行きの電車に乗り旅は続きます。11月、と言えば紅葉の時期。気になる山の様子はどうか。まだ紅葉には、早かったらしく、所どころ色づいている、という状態でした。しかし、山々が重なる様子は、大自然が迫ってくるかのようで圧巻でした。



アプト式の電車で約2時間。無事に井川に到着し、井川ダムの写真撮影し、井川本村に向かいました。6月にお世話になった方々に再び会うことができ、うれしかったです。

私はもともと山が好きなのもあり（ただし登るのが好きなのではない。いわゆる山ガールには一生なれる気がしない。簡潔に言うと草が比較的多い場所でじっとしていただけである）、FWの行き先が中山間地域と呼ばれる井川と聞いたときは小躍りした。実際行ってみると本当に山だった。もちろん良い意味である。

井川の方々はなんと言うか本当に温かい。6月の実習での経験ももちろんだが、先日追調査に行った際、突然の訪問にも関わらず温かいお茶を出してくださった観水荘さんや、「じんきち」さんの前を通りがかったときに、私たちをつかまえて、お酒やおでんを奢ってください井川のみなさんとお話していてそれは確信に変わった。別に物に釣られてこう言っているわけではないのだ。それらは私の普段の生活領域の中ではすることができない経験だと思ったし、だからこそ嬉しかった。酔っ払いならではの謎の言葉の応酬と、ものすご〜く高いテンション、そしてこれが祝日と言えど昼三時の出来事であるくらい、井川の方はお酒が好きである。井川に住んだらお酒に強くなる、というのに私は首肯せざるを得ない。

こうして私は多分井川のリピーターになるのだろう。就職口がなかったら井川に来ればいいよ（林業組合に入って木を切りなよ！！とのことである）、と言われ、それがまんざらでもなかったりするあたり、もう私はすっかり井川が好きだなあと思う。素敵である。

これから人生がどう転ぶかは分からないが、このFWはいい方向に転がしてくれたと思う。感謝です。また行きます井川！！

最後にFW中に撮らせて頂いた元氣なにわとりさんを一枚。卵おいしゅうございました。

〈コラム〉 井川へ行って感じたこと

鶴田 駿介

こんにちわんこそばんそーこー。

どうも。私です。

コラムということで、FW 実習で初めて訪れた井川で思ったこと、感じたことを、報告書とは違った軽い感じであらうと書いていきたいと思います。

初日に井川に着いてまず感じたのは、予想以上に山の中であるということだった。行くまでの道も非常に険しく、やっと本村に到着するも周りにはすぐ山があり、まさしく山間部の村であった。都会の喧騒を離れて現地の空気に触れると、動くもの、流れるものもよりなんとなく遅く感じられ、感情の振れ幅も小さく、そしてゆっくりになっていた。おかげで実習中に何度も昼寝をしてしまった。朝ごはんを食べてそのまま昼まで寝ていた日もあったな。ダム班の皆さんすみませんでした。閑話休題、とにかくいつもとは違う時間軸がそこにはあるようで、心に余裕ができていたのか、感受性も高まっていたようであった。働きすぎといわれる日本人の休暇にはあつらえ向きなのではと思った。

周りを山に囲まれている風景は、地元の山梨に似ていて親近感がわいた。距離的にも近いせいか、自分の知っている静岡のイメージよりも山梨のイメージに近い感じだった。そこで気づいたのが、井川の人にお話を伺う中で話す言葉のところどころに、山梨の方言である甲州弁と同じものや似たものが方言として使われているということだ。井川が静岡の中でも静岡弁とは少し違う方言を使うことは事前調査で知っていたことだが、実際に現地の人々と話をしてみると直接そのことが感じられ、土地柄とも相まってさらに親近感がわいてしまった。このことは両者の位置の関係もあるのだろうが、加えてインタビューの中で聞いた、井川に村を開いたのが戦国時代の武田の落武者であったということも大きく関係しているのだろう。

1 週間の泊りがけで本格的に FW をしたのは今回が初めてなのだが、実際に行動することの重要性を再確認させられた。事前調査としてネットや図書館を利用して井川のことを調べて臨んだつもりであった。しかし実際に現地に行ってみると、見るもの、聴くもの、肌で感じるものは、それぞれが刺激を与えてくれた。共感できるもの、予想とは異なっていたもの、新たな発見になったもの、そのほか多くの刺激が次の好奇心へと繋がっていった。様々な情報が入りすぎて、逆に何を調査すべきか迷ったことなど、大変なこともあった。けれども、今回の FW 実習で得た経験は生かすべき時が数多く現れると感じた。

軽めと言っておきながら結局あまり軽くならなかった気がしないではないことはここだけの話。井川は本当に暖かいところでした。ただ、自分が面倒くさがりなので周りに何も無いことは正直辛かった。それでは、コラム終わります。

貴重な経験をさせてもらったことに感謝。

本当にありがとうございました。

ここでは、井川の「グルメ」・「名物」・「名所」などの項目について、既存の観光ガイドには載っていなかった、一步踏み込んだ“ツウの情報”を紹介します！

1. 井川のコンビニ『はしとら』

井川には私たちが普段利用しているようなコンビニはありません。本村の中心部にあるはしとら商店は、井川のコンビニと言われ、子供から大人まで多くの人に愛されている商店の一つです。24時間営業ではありませんが、生活用品、文房具からお菓子やお酒まで取り扱っており、井川に住む人たちにとって重要な存在となっています。中でも毎日仕入れているあげぱんは大人気！あげぱん以外にもはしとらで売っている手作りパンは、全て井川にある手作りパン屋で作られています。私たちも滞在中、頻繁に利用させていただきました。井川には他にも観光ガイドには載っていない、住民に親しまれている魅力的な商店がたくさんあります。



2. 鹿肉

井川では新鮮な魚や野菜を食べることができます。私たちは滞在中に地元の方に井川の名産品を振舞っていただきました。その中でも初めて経験し、そしてとてもおいしかったのが、鹿肉です。刺身と燻製、どちらもおいしくいただきました。鹿肉や猪肉は静岡の街中ではなかなか味わえないでしょう。他にも井川のおみやげとして、井川の昔話に登場する井川の英雄『てしゃまんく』も使っている井川の有名な特産品、井川メンパの形をした『てしゃまんくもなか』があります。



3. 井川渡船

井川の自然を堪能できる乗り物と言えば、鉄道の方が有名ですが、井川のできる観光で意外に知られていないのが、井川湖を遊覧する井川渡船です。井川渡船は井川ダムと本村を結ぶ渡船で、井川湖を約40分かけて遊覧します。秋の紅葉も美しいですが、新緑の季節も井川湖の青と木々の緑の美しいコントラストが楽しめます。また、5～6月は気候も適し

ており、舟の上で感じる風もさわやかで気持ちが良いです。湖の上なので走っている間はほとんど揺れることはなく、快適な 40 分を過ごすことができます。なんとこの渡船は無料で運行しているので、井川を訪れたら乗らないと損ですよ！



4. 井川駅

井川駅は大井川鉄道井川線の駅であり、静岡県内の鉄道の中でもっとも標高が高い駅としても知られています。駅の構内は昔ながらの風景がそのまま残っており、懐かしさも感じられます。井川駅にあった運賃表には、親切なことに東京や名古屋までの運賃まで書かれて



います（ちなみに東京までは 6,660 円！）。この他にも、井川線の駅にはユニークなものを見つけました。私たちが下りた駅には、観光客が自由に書き込むことのできる「とある駅舎の落書き帳（トラベルノート）」と称されたノートがありました。旅の記念にぜひ訪れた記録を残しておきたいものです。

観光ガイドに載っていないことを知ることができましたか？これであなたも今日から井川ツウ！

コラム

深澤 佑輔

どうも、こんにちは。

ここではフィールドワーク実習で思ったことを適当に書きたいと思います。



ほんとに陸の孤島でした。お菓子をたくさん持っていけばよかった。300円分では足りません。あと、パソコンとデジカメを持って行くのを忘れました。

大変でした、いやほんとに、まじで、リアルに。

荷物になるからといってやっぱ持っていかなっこしよ☆ミ（キラッ）
っていうのはやめましょう。

1週間という短い期間でしたけど、毎日、夜にお酒飲んだりとか鹿肉食べたりとか、大富豪で教授も加わって遊んだりとかして楽しかったです（・ω・）

朝起きるの大変なので夜は早く寝ましょう☆

それではこのへんで。

井川でのフィールドワーク実習では報告書を書くための多くの情報を手に入れることができた。またそればかりでなく、大学生活で荒んだ(!?)生活リズムを改善し、健康的な生活リズムを取り戻すことができた。朝は八時までに起きて、朝ごはんを食べるなどという行動は下界にいたときには考えられないことであつたので、なぜ自分はこんな生活を送っているのかと最初は違和感さえ感じた。(笑)今回の実習で、一週間お世話になつた観水荘の皆さんには毎日一食一食違ったメニューでご飯を出していただいた。カレーなどの大衆的なものから、井川ならではの飯も出していただいて、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。



写真1 観水荘での食事

また、普段スポーツなどは大学に入ってからほとんどすることがなかつたのだが、今回の実習では地域の人たちが毎週行っているバレーボールに参加させていただき、久しぶりに汗を流して運動することができた。中学、高校とバレーボール部に所属はしていたものの、体を動かすこと自体が久しぶりのことであつたので地域の人たちのプレーになかなかついていくことができなかった。

現在ではすっかり元の生活リズムに戻ってしまいましたが…(笑)、これからも井川での一週間は忘れません。本当に井川の人たちには感謝の気持ちでいっぱいです。貴重なお時間を割いて、私たちの研究のために付きあっていただいたこと心より感謝します。ありがとうございました。

私も一応年頃の娘なので、調査とは直接関係なくても耳に残ってしまうのは「夫婦の馴れ初め」「いいなずけ」「幼馴染どうしの恋」などなどの、恋愛に纏わるステキなお話！！

とある奥さまは、ご主人との馴れ初めについてのお話の際、
「(井川が) こんな田舎だなんて聞いてなかった・・・
でも勢いで来ちゃったの！ あの頃は若かったから」とおっしゃっていた。
彼女は今でもじゅうぶんお若く、少し照れながら語る姿はととても幸せそうでした。
いーなあー！心から憧れます。

「昔は自由じゃなかったからね、いいなずけだったのよ」と語る奥さまも。
自由じゃないとは言っても確固たる約束がある・・・許嫁(いいなずけ)という響き、かっこいいな一。

最近、井川出身者同士が結婚式をあげたそうなのですが、そのようなことは近年まれであったため、村中ではりきってお祝いをしたというお話も聞きました。
大好きな故郷の人たちに祝福してもらえるなんて幸せ！多くの人に見守られて、まちがいなく生涯安泰！

完璧に私事ですが、
好きな人とおつきあいしててもなにひとつ確かなものなんてなくて！！
未来への希望もなーんにも見えない今！！
こういった熱いエピソードがまぶしい！！！！！！！！

将来ちゃんと結婚できるかな一。幸せな家庭を築きたい。

♥井川のみなさまへ・・・素敵な旦那さま募集中 私をお嫁にもらってください(笑)

☆フィールドワーク実習を終えて☆

鈴木 久仁子

今回のフィールドワーク(以下FW) 実習では、たくさんの「優しさ」に出会いました。そのエピソードのすべてをこのページに書くと、実に多くの方のお名前を挙げることになり書ききれないので胸にしまっておきますが、井川でお世話になったすべての方々に、心から感謝いたします。今でもときどき、井川の方々の太陽のようにまぶしい笑顔と優しさを思い出し、心を温めてもらっています。井川っ子が私たちの前で歌ってくれた「てしゃまんくのうた」のかわいい歌声も、頭の中に流れてなかなか離れてくれないときがあります(笑)。まさに天使の歌声★☆☆

もともと人と話すのが好きだった私ですが、「なぜ私は人と話すのが好きなんだろう」とふと考えたとき、「人の温かい心に触れられるから」という結論に達しました。井川でのFW実習を終えて、ますます「人間」が好きになりました。井川の方々の優しさに触れたからです。今回のFW実習の収穫は勉強の面だけではなく、度胸、「聞く力」、人と接するときのマナー、仕事や勉強の中に遊び心を取り入れることの大切さ、人の特徴を忠実に再現してうまいモノマネをする方法、それに

「井川は紫外線がとっても強いよ〜！」(滝浪秋代さん 2011:井川幼稚園前)とか、

「熊はともだち」(海野勲さん 2011:海野さん宅)とか、

「飲みすぎに注意」(某先生 2011:仕切り直し)とか、

実にいろんなことを学びました。

「文化人類学コースに入ってよかった！」

そんなふうに思えた、FW実習でした。

また井川に遊びに行こうっと! (*^_^*)

最後に改めて、私たちに多くの学びとすてきな笑顔とがんばるエネルギーをくださった井川のみなさま、18人もいる学生の面倒をみてくださった先生方、そして一週間のFWを一緒にがんばったみんな、本当に本当に(←大事なことなので2回)ありがとうございました!



井川に咲く花はとってもきれい



私の大好きな観水荘の方のひとり、栗山愛子さんと

「井川の人とのあたたかい出会い」



鈴木 誉子

6月12～18日の7日間、私は大井川上流にある井川の地にはじめて足を踏み入れました。現地ですべてを待っていたのは、毎日絶えることのない“笑いあり、笑いあり”の出会いの数々でした。優しくて個性的で太っ腹で、そして宴会大好きな(!?) 井川の人々との、論文には書ききれなかった出会いの一部を、心からの感謝を込めてここにしたいと思っています。

【エピソード1】海野勲さん・みち子さんご夫婦との出会い

調査2日目(6/13)の朝、かねてから約束していた海野勲さんのご自宅にお邪魔しました。思ったよりも勲さんの家を探すのに手間取り、わずかに遅刻してしまった私たちを勲さんは庭に立って待っていてくださった様子で、会って早々に本気か冗談半分か、遅刻を指摘され少し気まずい出だしになってしまいました。私と同行の久仁子さんはおずおずと家上がり、手近にあったマッサージチェア(!)に腰掛けた勲さんから井川に伝わる「棟札」の説明を受けました。勲さんは井川湖写真堂で店番をしているみち子さんと呼んで、わざわざお茶まで出して下さいました。出されたお菓子に「これは、井川の名物ですか？」と何気なく訊ねた私のリクエストに応え、みち子さんお手製の焼き柏餅まで振舞って下さいました。あったかい柏餅の登場で、私たちの空気も温かく和み、次に井川中学校との約束があった私たちは名残惜しくお2人の元を後にしました。

中学校への道を急ぎ足で歩いていると、突如後から軽トラックに乗った勲さんが現れ、私たち2人をトラックの荷台に乗せ、中学校への山道を颯爽と走り出しました。途中坂道を必死に登る教員2人も同様にピックアップして井川中学校まで送り届けて下さいました。勲さんのご好意により無事約束の時間に間に合うことができ、井川の人々の心の優しさを肌で感じた衝撃的な出会いでした。



◆ 写真1 海野勲さんと鈴木久仁子(左)、鈴木誉子(右)

◆ 写真2 みち子さんお手製の焼き柏餅

【エピソード2】絵本の郷での「新聞紙でゴミ箱を作り、お茶をする会」潜入レポート

調査4日目(6/15)、数日前に絵本の郷の宮崎みゆきさんからこの会の存在を聞き、私と枝里子さんで「参与観察」を試みました。私たちが絵本の郷に到着すると、すでに4・5人の女性が丸い木のテーブルに腰掛け、持ち寄った菓子とお茶を並べて談笑していました。宮崎さん以外の方とは全く面識がなく、内心どきどきでしたが、「一度きりのフィールドワ

ーク！何事も体験してみるべし！！」と勇気を出して輪の中に入っていました。女性会の皆さんとともにお茶し、雑談し、新聞紙の折り方を教わるうちに互いに緊張がほぐれていきました。

井川の女性は本当に元気で若く、個性派揃いの方々ばかりでした。話題は主に「料理」中心で、さすが女性会！という感じでした。この前朝市に鹿の皮の料理が出ていたとか、今度こういう商品出したらいいのではという議論、旬の食材を使った調理法の共有など、尽きることなく話が飛びかっていました。また、私以上に芸能通で、AKB48の新メンバー江口愛実の話題が出た時は、どちらが女子大生かわからないほどでした。メンバーから尊敬心を込めて(?)「先生」と呼ばれる遠藤さんが初めて作ったというそば粉とあんこ、数種類の味噌を使ったおやきの味は忘れられません。そして、味噌入りのおやきを「先生、あんこはいいけどやっぱり味噌は合わないわー」と遠慮のない辛口で口々に批評する姿も忘れられません。批評に対して先生も、「ために作ってただけだから」と何度も念押ししながら抗戦されている様子でした。

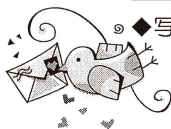
こうした自然なやりとりが本当に楽しく、何でも互いに言い合えるほど、心を許しあった関係がそこにあるのだなあと感じた午後のひとときでした。

突然の女子大生の参入を温かく受け入れてくださった女性会の皆様、本当にありがとうございました！



◆写真3 お世話になった宮崎みゆきさん

Special Thanks



- ・毎日机に並べきれないほどの美味しいお料理とやさしい笑顔を下された観水荘の皆様
 - ・インタビュー、スポーツ活動への参加などこころよく協力して下さった望月倫久さん
 - ・子どもに負けず元気はつらつとされた滝波秋代さんと可愛い井川幼稚園の園児の皆様
 - ・新鮮な山女やイノシシ鍋、鹿刺しをもって駆けつけてくださった井川地域の皆様
 - ・一緒にお昼を食べたり、授業に参加させたりして下さった井川小学校・中学校の皆様
- その他にも、井川の皆様からは沢山の応援を頂きました。またどこかでお会いできるのを楽しみにしています！ありがとうございました。

井川の子供の教育

Inken Trebbin

はじめに

※インケンさんは、私たちと一緒に井川でのフィールドワークに
取り組んだドイツからの留学生です。

1 井川の教育施設内の教育

2 井川人との交流

3 町を出る

3.1 井川外の施設との交流

3.2 高校生活

4 結論

はじめに

井川は、安東のように、静岡市の葵区の一部である。しかし安東と井川の住民の生活には、大きな相違点がある。井川は静岡市から遠く離れていて、静岡駅からバスで行くと2時間もかかる。したがって、都会人が当然なことと見なすたくさんことは、ここでは決して当然のことではない。例を挙げれば、店が少なく、それに応じて商品の選択も限られている。映画館、ゲームセンターもない。それに病院に行くときは、町へ出なければならず、時間もお金もかかる。

一方、井川には、都会にない良さもある。初めて到着すると、きれいな景色、新鮮な空気と心地よい静けさが印象に残る。そして住民によるとここに住む人の間に一種の連帯感があるという。みんなは他の人を知って、困っているときにお互いを助け合うという。

その狭いコミュニティでは老人 65 歳以上の人が 55%くらいで、子供は少ない。そこに住んでいる子供のうち 4 人はその土地の幼稚園、5 人は小学校そして 6 人は中学校へ通っている。一つの学年にはそれぞれ一人や二人の子供しかおらず、生徒がいない学年もある。その子供たちに対する授業はコストがかかる。小・中学校は生徒数より職員数が上回り、100 人以上の生徒に対して建設された校舎も維持費がかかる。ところが、他の学校は遠くて、仕方なくこの地域の学校に通っている。それに井川の住民に聞いたら、その費用は当然のものだといわれるかもしれない。「子供は井川の宝だ」という意見が大多数である。しかし、その宝をどうやって教育するかについて考える人も多くいる。特に児童たちがが小さな規模のクラスで教育を受けているのは問題だ。それから以下に井川の教育制度に集中する予定である。どんな特徴があるか、そして子供に井川の外界へ行くための準備をどのようにさせるかを述べるつもりだ。

1 井川の教育施設内の教育

一見すると、井川の学校は他の学校と同じである。しかし四月にここに転勤された中学の先生は、ここでできないことがあると指摘する。例えばサッカーチームや合唱団などを構成することができない。生徒が少ないからだ。クラスもそんな感じだ。先生は一人で、一人から最大二人の生徒を教えている。それで

小学校の先生は大体生徒に問題を与えて自分で解決させるようにする。解決ができれば、新しい問題に進みます。よって生徒達は自分のスピードや強さと弱さに合わせた授業を受けることができる。しかしその反面、小さなクラスのせいで、個性の成長に欠かせない他の子供たちとの争い・対決が少ない。

子供たちの交流をはかるため、毎年、幼・小・中のふれあい活動 が五回行われている。その中に福祉センターのクリスマス会、体育祭り、合同学習発表会、小学校の遊び会と「幼・小・中お弁当の日」がある。最後のは、自分で出席するきっかけがあった。この日の計画に沿って、全員はまず一緒にご飯を食べて、それから宝探し、最後に合同レクリエーションを行った。全部、プログラムの紙から宝探しまでは中学生によって設けられていた。最初からよいグループの混成に注目されたから、幼・小・中の子供は均等にグループに分けられた。一緒に弁当を食べた後、子供達は宝探しに行った。小さい子供は学校中で配布された絵を探し、中学生は一緒に行き、チームを見張った。決勝戦で中学校の校長先生と勝負だったが、全チーム勝利した。その後、中学生はそれぞれのチームに商品としてバッジを与えた。終わりに子供たち、先生たちと両親は円になって一緒に「てしゃまんくの歌」と「ふるさと井川」という井川についての歌を歌った。

このイベントは中学生が責任をとり、小さい子供たちは中学校のビルを知り、中学生と交流する機会でもあった。中学生は井川で一番年長の学生なので、他の子供達の手本になるという。その背景にも小さい子供達は年上の子供達がどのように行動するを体験するのは大切だと思える。

2 井川人との交流

井川の子供達との住民との交流促進のための特別交流イベントについて、一つの例は教育施設と井川のデイケア・センターの交流である。デイケア・センターの所長によると、その交流はアイセンという福祉センターの完成から静岡県学校教育課によって導入された。特に幼稚園はこの交流に重点を置いている。一ヶ月に一回幼稚園の子供はデイケアのお年寄りとともに昼ごはんを食べる。その後デイケアのほうからゲームを一つ、そして幼稚園のほうからの出し物を一つ行うようだ。ゲームはボウリングや、輪投げなどがある。幼稚園の先生によるとこのゲームはお年寄り向きだが、「幼稚園の子達もすごく喜んで、勝ち負けを競って、おじちゃん・おばちゃんの仲間にはいってやります」という。幼稚園側の出し物はダンスを披露したり、施設の歌を歌ったりする。最後に帰るとき、子供は「またくる」といって、一人ずつ握手と挨拶をするという。そのとき「おじちゃん・おばちゃんが喜んでくれて涙まで流してくれて」という。先生はこの交流が子供にとっても大切だと思っている。まず先生は、「4人ではできないゲームを大勢のおじちゃん・おばちゃんと一緒にできるという経験もできるので、それはすごく楽しい」と思っている。そして祖父母がいない子供が「おじちゃんってどういう人」知るためにも役に立つという。最後にこの交流に反対する両親がいるかと聞けば、「いない」と先生が思っている。

3 町を出る

子供は世界をテレビだけで体験しないように、自分で井川を出てほかの場所を経験しなければならない。確かに両親自身は、時々井川を出て旅行をする。それなのに教育設備も子供が色々な体験ができるように努力する。その努力の一つの例は修学旅行であるが、それなら都会の学校も行う。しかし井川を出る機会はそれだけではない。

3.1 井川外の施設との交流

井川教育機関のもっとも特徴的な努力は井川外の施設との交流である。交流は幼稚園から始められる。幼稚園の先生によると、子供は井川で大人ばかりとあって、他の子供と違う経験をして、それでも「世界では何が楽しい」を知るためにこの交流が必要という。そのため、幼稚園の子供は全部で5回姉妹幼稚園にいった、お互いに手紙を書き、卒業のときにはお互いにお礼を言う。小学校にもこのような交流がある。小学校のウェブ・ページによると、「普段と違う雰囲気戸惑う様子も見られました」、他の交流では「普段は、同学年の子供と競い合うことがないため、とても良い機会となりました」という事だった。以上のことから、井川ではできない体験が、井川外との交流によってできることがわかる。井川の子供は恥ずかしがりやだからあまり他の学校の子供と友達にならないとも言われたが、一日限りの交流なら当然ではないだろうか。しかしそうだとすると、都会の学校の雰囲気を体験し、ほかの子供の日常生活を知ることができるのが大切だと思う。

3.2 高校生活

最後の挑戦は中学校を卒業した後高校に行くことである。井川内には高校がなく、井川を出るしかない。家族は常として井川に残るため、静岡市には特別な寮がある。そしてある家族は静岡市に別荘があるというが、それも家族と別れることに他ならない。ある父親はこれについて、娘が最初の一年で寮に住んで困ったといった。ところが、父自身は高校生のとき困ったところはなく、よく他の学生と遊んだといった。

結局子供は井川の外の生活になれるといえる。井川内では仕事が少ないため、他のところに就職する。そして井川に帰るのは大体休暇・週末・休日だけである。井川以外の地域に住む準備に成功したといえるのではないだろうか。

結論

井川では、子供の教育と社会化について考える人がたくさんいる。井川の学校、住民、または静岡県内での交流について、様々な角度からこの問題は取り組まれている。これは子供達に対して普通は得られない経験をするきっかけになる。そのおかげで子供達は、人数が少なくとも多数のサークル活動のようなことに参加することができ、早期にお年寄りとの交際、そして、短期的ではあるが、より大きな学校の日常生活を経験することなどができる。結局子供は井川を出て高校(または大学)に行ったあと、普通に井川以外の地域で就職して生活をする。よって井川の教育制度は井川っ子が自立できる能力を与えているといえる。